

重点課題別評価

資料 6
西 東 京 市
男女平等参画推進委員会
令和 2 年 1 月 21 日

I-1 男女の固定的性別役割分担意識の解消

日本では男女共同参画社会基本法が誕生して以来、今年で 20 年になろうとしているが、未だに「女性だから、男性だから」という男女の固定的性別役割分担意識が未だに根強く残っていると言わざるをえない。性別にとらわれず、市民のひとりひとりが社会の構成員として自らの意思により、いきいきと個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を実現するために、男女の固定的性別役割分担意識の解消をすすめていかなければならない。

今回の評価では、委員会において高い評価を示しているものが多数ある一方、担当課評価に対し、委員会評価が低い項目がある。また、前年と比べ低い評価を下された項目に関しては理由を追求していくことが望まれる。これまでの評価と本年の評価を生かし、市民のニーズをどのようにしたら掌握できるかを検討していただきたい。

(1) 男女平等参画推進のための意識啓発と情報提供

学習人材情報の登録者を見ると、女性が約半数を占めており女性の地域活動への意識向上が窺える。

情報誌「パリテ」の内容や見易さは年々向上している。今後は、情報を届けたいターゲットの明確化・配布場所・SNS の閲覧数をどのように増加し、周知していくかが課題であると考える。

特に SNS においては、Twitter、Facebook、Instagram 等、使用されているアプリケーションにより年齢層が異なることもあり、それらを分析し情報を届けるターゲットを明確化できる。

「パリテ」を発行するだけでなく具体的な数値目標を設け、実際に手に取り内容に目を向ける市民が増える様な工夫を考えていかなければならない。

「パリテまつり」においては、バラエティーに富んだ講座が企画されている。今後も幅広い年齢層の多くの市民が参加することにより男女平等参画について発信されることが望ましい。

(2) 男女平等に関する学習機会の提供

数多くの魅力ある講座が開催されている。その中で父親支援事業の成果が上がっていることは高く評価できる。これらの講座が市民に更に浸透するような周知方法の工夫と、講座内容の質の向上を期待したい。また、保育付きの講座が増えたことで育児期の女性の参画につなげることができている。

一方で、「男女平等参画」の意識に関する蔵書が約 1,000 冊あるが貸し出された図書は 234 冊と、前年に比べると増加はしたが今後も図書の配置を工夫するなど市民が手に取りやすい環境を整えることも重要である。

(3) メディア・リテラシーの普及と教育

庁内においてガイドラインや事例集の周知に努力されているが、今後は市民への普及が課題と思われる。

今後、「メディア・リテラシー」に関する講座を開催することが検討されている。積極的に多くの市民が学べる講座が開催されることに期待する。

委員会評価	施策 (1)	施策 (2)	施策 (3)	重点課題評価
R 1 年度	A	B	A	A
R 2 年度				
R 3 年度				
R 4 年度				
R 5 年度				

